同志社女子大学

学芸学部　国際教養学科

講義の流れ

この講義では研究論文を英語で作成するための、実践的な研究・調査の技術を学ぶ。今日のテーマ「コーディング（Coding）」は、データに「コード（符号）」を割り当てて分類・整理・数量化していく社会調査法の一つ。学生たちは、以前に雑誌や新聞記事の文章などを分析する「内容分析（content analysis）」について学習しており、それらを踏まえたうえで講義は展開する。

URL http://www.dwc.doshisha.ac.jp/
京田辺キャンパス：
〒610-0395 京都府京田辺市興戸
今出川キャンパス：
〒602-0893 京都市上京区今出川通寺町西入
広報部 入学課（京田辺キャンパス）
TEL　0774-65-8811

学芸学部　現代社会学部　薬学部　看護学部
表象文化学部　生活科学部

Point　国際教養学科はここがおもしろい！

1年次からプレゼンテーションを行う講義がたくさんあるので、人前で英語を話す機会がとても多いです。自分で体験して学んでいくので、英語力もプレゼンテーション力もとても鍛えられますよ。

留学ではこんなことを学びたい！

外資系のCAを目指しています。留学先ではジェンダー論や国際関係論なども学びたいと考えています。この1年でライティングやヒアリングの力はかなり上達したので留学を機に夢も変わるかも!?

大塚 菜々子さん
学芸学部 国際教養学科2年
滋賀県立 彦根東高校卒

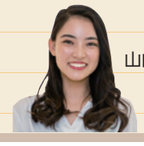
山内 梓さん
学芸学部 国際教養学科2年
大阪府立 登美丘高校卒

- OPEN CAMPUS INFORMATION -
オープンキャンパス情報

◆京田辺キャンパス（学芸学部、現代社会学部、薬学部、看護学部対象）
◆今出川キャンパス（表象文化学部、生活科学部対象）
7月29日(日)、8月4日(土)、8月5日(日)、9月16日(日)、
12月9日(日)、12月16日(日)、2019年3月17日(日)
＊事前申込不要・入退場自由。
＊12月9日(日)は今出川キャンパスのみ、12月16日(日)は京田辺キャンパスのみで開催。
Program：●大学紹介・入試説明会●学部・学科紹介●ミニ講義●体験型講座●個別相談コーナー
●在学生によるキャンパスツアー●音楽学科学生によるミニコンサート　など
※内容は日程によって異なります。詳細は大学公式Webサイトでご確認ください。

私の学食オススメメニュー

友和館3階「えんじゅ」の「100円朝食」。ご飯と味噌汁とおかずがついていて、サクサクのコロッケや、ポン酢をかけただし巻き卵がおいしい！



山内 梓さん

こんな学生を待っています！

ぱっと思い浮かぶのは「好奇心」を持っている学生ですね。興味のあることが何もなければスタートラインにさえ立てません。逆に何にでも興味を持つことができれば、言葉の壁を超えて学ぶことができます。熟心さや自分で考える思考力を高校生の間に身につけておくとよいでしょう。

先生のご紹介　沖（おき） キャサリン（きゃさりん） 先生

同志社女子大学学芸学部国際教養学科助教。2000年 University of Mary Washington　卒業。2008年 University of York MA Teaching English to Young Learners Distinction 修了。2009年 MA Teaching English to Young Learners　取得。研究分野は"English Academic Skills Development"

本日の講義

Academic Writing Ⅲ

5.22
（火）
at
京田辺キャンパス
＊
15:00
〜
16:30

醍醐味

リベラル・アーツを重視している国際教養学科では、英語力はもちろん、国際舞台で活躍するための幅広い教養を習得する。その大きな柱となるのが、二年次秋学期から三年次春学期における英語圏の大学への一年間の留学だ。学生たちは留学先で現地の学生たちと一緒に講義を受け、あらかじめ自身で設定した研究テーマを調査・研究する。そのため、より実践的な研究・調査手法を学ぶのが沖先生の「Academic Writing Ⅲ」。講義は少人数制で、会話はすべて英語。世界に通用する「知」の体系を英語で学び、実践できる点が大きな魅力だ。

留学前の総仕上げ 調査研究の基礎的技法「コーディング」とは？

二年生が履修する沖先生のこの講義は、夏から始まる一年間に及ぶ長期留学に向けての総仕上げの一つ。現地での研究テーマを決めたうえで留学に臨む学生たちは、この講義で研究・調査の進め方やインタビューのやり方など、研究に必要な実践的な方法を学ぶ。もちろん会話はすべて英語だ。

今日学ぶのは「Coding（コーディング）」と呼ばれるデータ分析の方法。アンケートやインタビューなどで集めたたくさんのデータを扱う際に、それらのデータに「コード（符号）」を振ってぐに反応して手を挙げた。「K-POP」「クラシック」「ジャズ」と、次々に回答する学生たち。少人数で行われる講義は先生と学生との距離がとても近い。ときにジョークを交えながらの沖先生の明るい声に、学生たちはとてもリラックスした様子で耳を傾ける。

調査・研究に必要な実践的技法は異文化理解にもつながる

バッグの中身を分類!? カフェでの実地調査も体験してみよう！

続いて先生が指示を出すと、学生たちは自分のバッグの中身を机に広げ始めた。お茶やジュースは〝drinks〟、手帳やペンケースは〝stationery〟という具合に、持ち物を分類していこうというわけだ。「ではスマートフォンはどこに分類されますか？」と、先生が水を向けると「necessities（必需品）」という声が上がる。ところが「電子辞書」を分類する際に「electronics（電子機器）」という新たなカテゴリーが生まれると、スマートフォンはそちらに移動することに。

「このように、分類を進めていくと、カテゴリーを新しく追加したり変更したり、あるいは削除する必要も出てきます。それを繰り返しながら情報をブラッシュアップしていくわけです」

分類しておけば、類似のデータを一つのカテゴリーにまとめて数量化できる。それだけでなく共通するパターンを見出したり、データの比較や分析もやりやすくなったりする。

「例えば音楽はどのように分類することができますか」沖先生が英語で問いかけると、一年次から英語力を磨いてきた学生たちはすぐに反応して手を挙げた。「K-POP」「クラシック」「ジャズ」と、次々に回答する学生たち。少人数で行われる講義は先生と学生との距離がとても近い。ときにジョークを交えながらの沖先生の明るい声に、学生たちはとてもリラックスした様子で耳を傾ける。

後半はフィールドワーク。教室を出て、キャンパス内のレストランやカフェにおもむき、店員や来店者の数、メニューなどを調査。さらにインタビューも実施して、そこにいる人たちの属性（学生、先生）なども細かく調べていく。

「コーディングは研究のみならず、異文化を知る手助けにもなります。留学先で何を聞いて何を見たかを細かく〝describable（言い表せる）〟ようにしておけば、彼らの文化をより明確につかむことができるからです」

「留学を前に不安もあるかもしれません。失敗を恐れずに諦めないことが大事」と沖先生。学生たちの旅立ちのときはもうすぐだ。

同志社女子大学、こんな大学でした！

豊かな緑と広い庭園を中心に建てられた校舎が印象的な京田辺キャンパスは、まさに伝統と革新が共存する大学。自然光を取り入れた素敵なカフェレストランでは、学生たちが落ち着いた雰囲気の中でくつろぎ勉強に励んでいました。